

ボーイスカウト千葉第25団の紹介

【発団のころ】

1982年9月25日に、千葉第13団から分封して当団が誕生しました。当団の活動地域（稲毛地区）は、柏台・園生・小仲台町などはともとても若々しく、どんどん人口も増加しておりました。

活動場所は、最初に現千葉市花見川区犢橋町三社神社の境内を利用し、後に「三社の丘訓練地」稲毛区宮野木町の「つくしの訓練地」、稲毛区園生町の「貝塚訓練地」を地元の地主さんより無償で借用し活動してきました。いずれの訓練地も住宅開発により返還し、現在は稲毛区園生町に「くるみヶ丘訓練地」を借用して活動しております。

発団当時は、3隊でのスタートで、カブ隊42名（小学校3～5年生）、ボーイ隊29名（小学校6年生～中学3年生）、シニア隊6名（高校1～3年生）のスカウト数でありましたが、リーダーの経験者が少なく、父兄全員で手探りの活動でありました。しかし、父兄の協力も得やすい状況でありデンリーダーや補助者として、積極的な参加をしてもらうことが出来、「全員参加の千葉第25団」として活動していました。この「全員参加の千葉第25団」が、今でも当団のモットーであります。

発団以来10数年はスカウト、リーダー数も順調に増加し、登録最高時にはスカウト数139名、総登録者数194名と地区最多スカウト数の団になった時期もありました。その時期には、カブ隊35名、ボーイ隊45名と2ヶ隊編成も検討されたものです。本当に今では夢のようでした。

【そして今】

現状は、スカウト数の急激な減少に、危機感を持っております。地域の高齢化に伴う対象年齢者の減少や、多様化した小中学生の時間としてサッカーや野球などクラブの活動や、塾や習い事の為など、スカウト活動にとっての逆風が影響しています。カブ隊は1組、ボーイ隊も1班と激減しております。しかしようやく対応策の効果が出てきており、新規スカウトの入団者増加や、中途退団者の減少に歯止めがかかってまいりました。体験入隊の年2回以上の実施や、地域の交流事業への積極的参加により、地道な広報活動が功を奏してきております。

活動内容は、ビーバー隊、カブ隊、ボーイ隊、ベンチャー隊、ローバー隊全ての隊が、基本的に沿った活動をしております。スカウト数は少ない中ですが、充実したプログラムと各隊間の連携により、各隊スカウトの年代に合わせた主体性のある密度の濃い活動をしています。

2007年には、発団25周年の記念キャンプを富士山の麓で開催し、団全員の力を結集して、ビーバースカウトを含めた団全員の富士山登山を実施し無事達成しました。

【明日へ向かって】

スカウト活動は「よき社会人の育成」の為に“ちかいとおきて”の実践が、お手本にあります。

「自分のことは自分でする人」 「いつも他の人を考える人」 「社会に貢献できる人」

このことを常に意識して行動することが出来る人になる育成をします。

最近の社会は、人と人の繋がりがより希薄になり、人との交流にも煩わしさを感じる人が増加していると聞きます。自己中心的で他人への思いやりの心が希薄にもなっているともあります。又、個性を大切に育った故でしょうか自己主張が強すぎ、友だちどうしの交流が上手く出来ない大学生も増加してきているとも聞きます。

スカウト活動では、自然の中で仲間と体験しながら、自然・人の、大切さ・有り難さを学びます。思い通りにならない大自然の中で、年代の違う仲間が同じ班・組として活動し“自分とは” “仲間とは” “班（組織）とは”を体得して行きます。このことにより、社会で活躍をできる人になるスカウトの育成をしたいと思います。

又、地域密着した活動をして、スカウト活動の必要性を広め、スカウト増加を目指します。

当団のモットーである「全員参加の千葉第25団」で、より明るく活発なスカウト活動となるように全員で推進して行きます。